

エコバランスで事業全体の環境負荷を把握し、長期目標や行動計画の設定に活用しています。

リコーグループは、環境影響の大きい工程から効果的に環境負荷を削減するために、「エコバランス<sup>\*1</sup>」によって事業活動全体および工程別の環境負荷を把握しています。エコバランスは、「環境経営情報システム<sup>\*2</sup>」で収集したデータをもとに、人間の健康への影響、資源の枯渇、生態系への影響など、事業活動から発生するすべての環境影響を、統合化分析手法<sup>\*3</sup>によって数値化したものです。「エコバランス」により把握された「統合環境影響」の評価をもとに、「2010年長期環境目標<sup>\*4</sup>」や「環境行動計画<sup>\*5</sup>」の設定を行っています。

\*1 企業が発生させる環境負荷を定量的に測定・把握・報告する手段として、環境負荷のインプット/アウトプットデータの一覧表を作成すること、または一覧表そのもの。

\*2 : 49ページ

\*3 スウェーデン環境研究所が、製品のLCAを算出するために開発したEPS(Environmental Priority Strategies for Product Design)という手法を、エコバランスの算出に応用しました。EPSは、環境負荷が人間の健康、生態系、非生物資源、生物多様性に与える被害量を、統一指標ELU(Environmental Load Unit)を使って金銭換算する手法です。CO<sub>2</sub>=0.108ELU/kg, NO<sub>x</sub>=2.13ELU/kg, SO<sub>x</sub>=3.27ELU/kg, BOD=0.002ELU/kgなどと指標化されています。

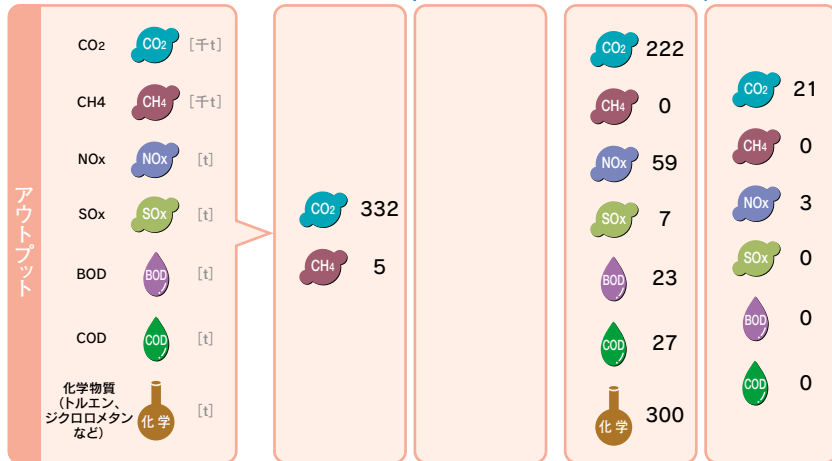
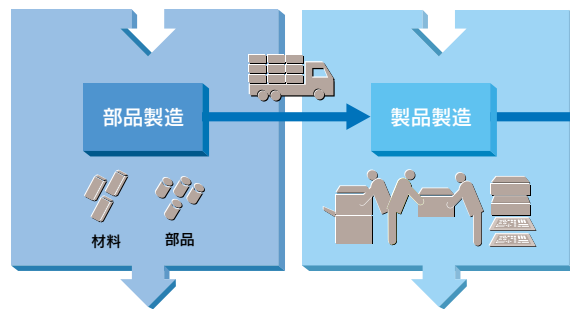
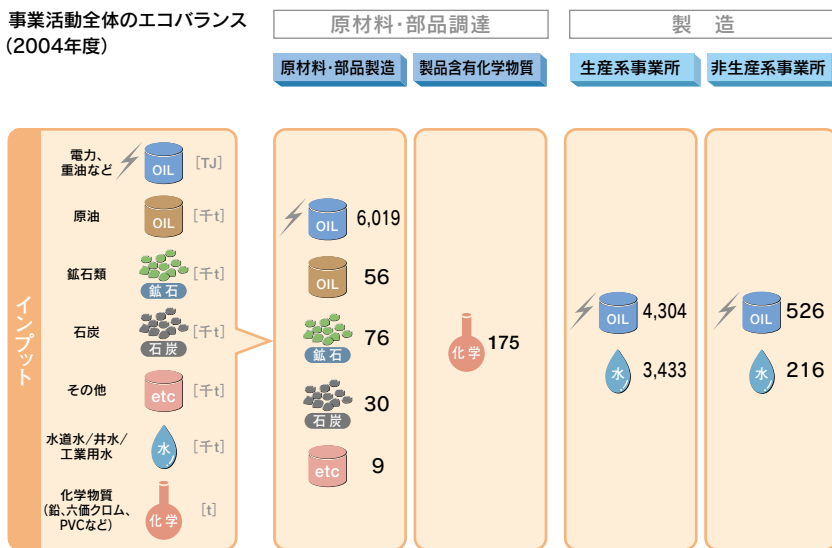
\*4 : 9ページ

\*5 : 11ページ

●2004年度のレビュー

リコーグループ全体の統合環境影響の値は昨年度より増加しました。主な理由として、製品販売の増加による資源利用と、お客様における紙消費に伴う環境影響が増加したことがあげられます。一方、製品中の環境影響化学物質(鉛、六価クロム、PVCなど)の削減、製品の消費電力低減の施策は着実に効果をあげています。エコバランスは毎年、精度向上のため評価方法、評価範囲の見直しを行なっています。2004年度は国内外の画像製品事業に加え計量器事業をデータの収集範囲に追加し、対象とする原材料の見直しも行いました。

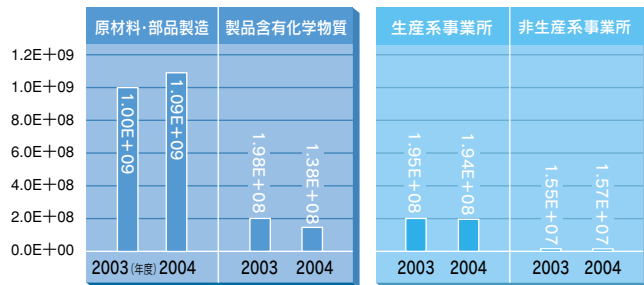
事業活動全体のエコバランス (2004年度)



事業活動の環境影響を統合化した数値

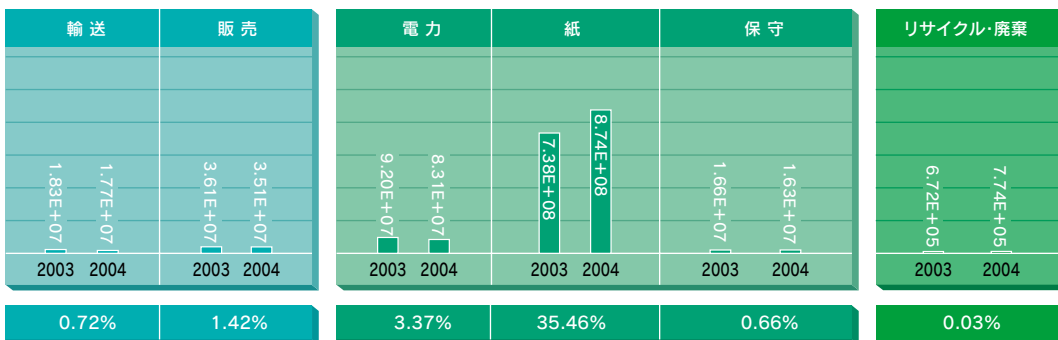
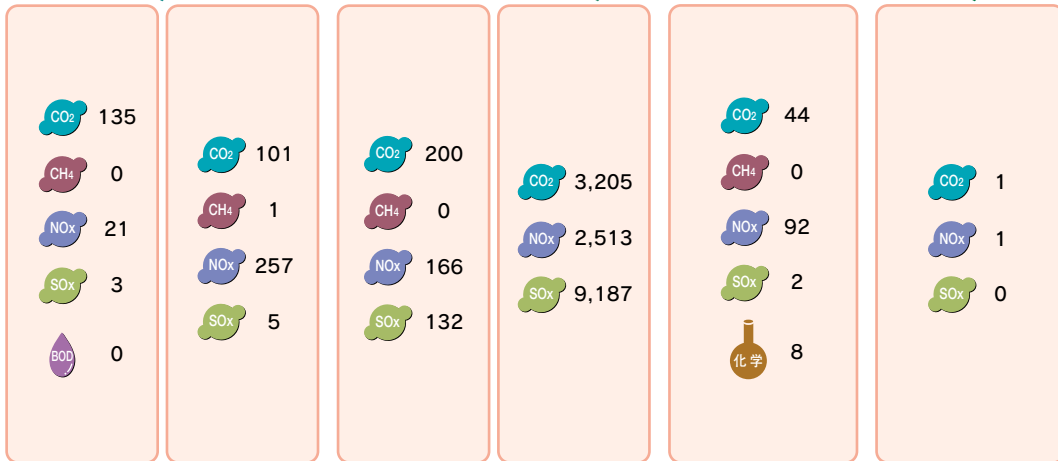
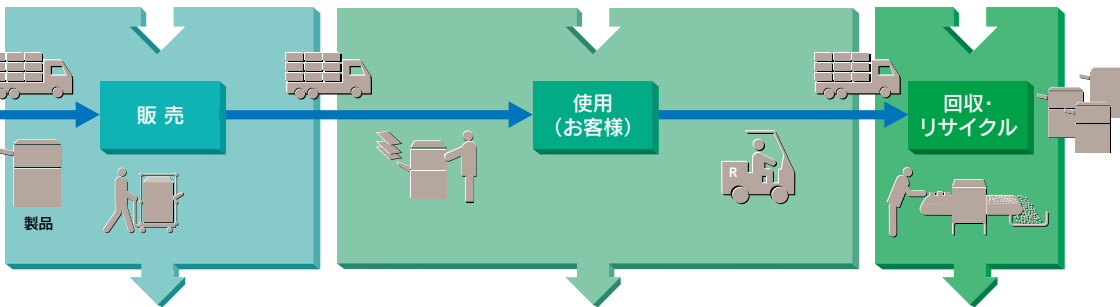
単位: ELU

※ データの収集範囲が拡大したため2004年度の報告書とは比較できません。また、販売・保守工程の海外分の数値は推定値を使用しています。



統合環境影響の割合(2004年度)





[E+n]は「 $\times 10^n$ 」を意味します。例) 1.45E+08 =  $1.45 \times 10^8$